



その時、あの歌が聞こえてきた... 1958年・夏・大人になる前の日。

日本ヘラルド映画
 〈カラー作品〉アメリカ・イスラエル合作 GROWING UP

グロウイング・アップ



友情、セックス、初恋と失恋...この年代に体験する喜び、苦悩、悲嘆そして不安など一つの時代にもある思春期の生活スケッチを鋭くとらえて、ノスタルジックな画面と、全編に流れる当時大ヒットした25曲の音楽で、無垢な少年時代に必ず通らねばならない青春のひとコマを見事に浮き彫りにしたこの映画は、オールディーズ・ブームと相まって、公開されたすべての国で大ヒットを記録しているという。

恋して、愛して、傷ついて、成長していく。クローイング・アップ。これは1958年イスラエルを舞台に、17才の高校生達の生き生きとした行動をおして、誰でもが一度は味わう青春の甘スツバイ思いを、ユーモアとペーソスと涙で綴った青春映画の久々の傑作である。

すべての国で
 ヒットを続ける
 青春映画の傑作

〈スタッフ〉	
製作	ヨーラム・グローブス メナハム・ゴーラン
監督	ボアズ・デビッドソン
脚本	エリオ・テイバー
撮影	アダム・グリーンベルグ
編集	アラン・ヤコボヴィッツ
〈キャスト〉	
ベンジー	イフタク・カツール
ニキ	アナタ・アツモン
ポビー	ジョナサン・シーガル
ヒューイ	ツアッチ・ノイ
ステラ	オフエリア・シュトロール

1958年のある日、ベンジーは今日もドイツで親友のポビーとヒューイと連れだつてガール・ハントをしていた。そこへ入ってきた同じ学校に通う美しい少女ニキに一目惚れする。ダンス・パーティーの晩、ポビーにガール・フレンドを紹介されたベンジーはびつくりしてしまう。なんとニキだつた。夏になつてベンジーは、ニキの口からすでにポビーと結ばれ妊娠していることを告げられ驚く。ニキはポビーに涙ながら訴えるが知らんぷり。そんなポビーに怒つたベンジーは、彼女の墮胎のための金を工面しようと奔走する。子供を墮ろしたニキは、自分に愛を告白してくれた優しいベンジーに好意を持ち、ハースデーパーティーに招待する。有頂点になつたベンジーは、彼女へのプレゼントを持つてパーティーに向かう。しかしそこに見た光景にベンジーは愕然とする。抱きあつて踊るポビーとニキの姿だつた。打ちひしがれ、涙を流しながら歩くベンジーの肩に冷たい霧雨が注いでいく。

この映画は最近の青春映画に見られるドロップアウトしたり、反体制的であつたり、人生に悶々としたりする若者でなく、今までの青春映画から見失われてしまつた「純情可憐」という昔なつかしい言葉さえ思い出させる。それは非常にひよわでセンチメンタルであるが、そうであればあるほど本当に青春の生あたたかい匂いがしてくるのだ。

50年代後半のリーゼントスタイルやアイビーなファッションも話題だが、この映画では当時のヒット・チャートの上位を独占したノスタルジア・ポップの数々が最高の魅力となつている。ハンバーガー・スタンドでパーティーする少年たちにビル・ヘイリーの「ロック・アラウンド・ザ・クロック」が、愛を確かめあう2人にポールとポーラの「ヘイ・ポニー」が、小雨の中を失恋の涙をこらえて歩く少年の肩にポビー・ピントンの「ミスター・ロンリー」が甘く優しくささやかける。他にブラザース・フォアの「グリーン・フィールズ」、ポール・アンカの「ダイアナ」、君はわが運命、リトル・リチャードの「のっほのっほ」など全25曲が、この世代の少年・少女の躍動感溢れる体験をスクリーンいっぱいにもなげさせている。

心があなたかくなる
 そして
 目頭が熱くなる。

製作のメナハム・ゴーランはトニー・カーチス主演の「暗黒街の顔役」などおなじみ。主演のベンジーにイフタク・カツール。感受性溢れる繊細な少年期を好演している。ほかにも女を簡単にモノにしてしまうブレイボリーのポビーにジョナサン・シーガル。いつも金を払わされ、その計算ばかりしている太つちよの三枚目ヒューイにツアッチ・ノイ、美しい少女ニキにアナタ・アツモンなどが出演している。

25曲にスクリーンも
 フクフクノ躍動する
 踊りだす!

*** 2月 旬 《青春のきらめき》ロードショー!**

渋谷東急文化会館 5館 伊勢丹斜め向 地下鉄東銀座下車
渋谷東急 (407) 新宿京王 (356) 東銀座東 劇 (541)
 7029 3518 2711